



東京2020オリンピック



東京2020オリンピック アメリカセブンズラグビー

女子チーム事前キャンプにおけるリカバリーケア報告書



序章

岡山県美作市より東京2020オリンピック
アメリカセブンズラグビー女子チームのリカバリーケアを
公益社団法人岡山県柔道整復師会に依頼される
コロナ渦で緊急事態宣言が繰り返される中
また、開催自体が危ぶまれる中
わずか2ヶ月という短期間ではあったが
我々24名の柔道整復師は
アメリカセブンズラグビー女子選手のリカバリーケアの任務を受け
選手達をベストコンディションで東京スタジアムに送り出すため
コロナ感染予防対策を講じ、研修と実習を繰り返した
..そしてケア本番に臨んだ
結果、予選トーナメントを全戦全勝で通過させるに至った

報告書

公益社団法人岡山県柔道整復師会

副会長 森本 正章

コロナ渦でもあり、更に国際大会特有の箝口令が敷かれる中、情報の漏洩防止に注力し、また新型コロナウイルス感染予防対策に細心の注意を払いながらのケア活動であった。

当初オリンピック自体が開催されるかどうか懸念されていた中、オリンピック開催決定となり、急転直下正式に事前合宿も行われることが決定したが、USA 七人制ラグビーチームからの様々な要望や急な内容変更により現場は相当混乱した。しかし、従前から準備を行っていたため短期間のうちに準備を進め、この事業を完遂することが出来た。またケア活動自体もスタッフ全員、一人の脱落者もなく本事業を推進することが出来た。ケア活動では、長尾日整学術教育(兼国際)部長、大分県理事の指導、協力を得てデーブティッシュマッサージを修得、現場で USA 代表選手にその施術を行い USA チームには高評価であった。また、危惧されたコロナ感染者を出すこともなかった。

日本柔道整復師会には急な事態にも拘わらず快くご支援いただき、美作市及び萩原市長はじめ大会関係者にも大変喜んでいただき、重要な国際交流の一翼を担うことが出来た。

この体験をいかに社会や業界にアピールし、柔整師会及び多くの柔整師の発展に生かしていくべきか。また、次の世界大会レベルのケアに参加するために問題点と課題を分析し、どのように次世代に残すかを検討しなければならない(記録と実技継承)と考えている。更にこのたび修得した世界のトップアスリートが望むリカバリーケアとしてのスポーツオイルマッサージを通常の柔整業務にどう活かすか等、建設的な課題が多く残った。それぞれを慎重に評価、分析し、この度の貴重な経験を通しての施術技術の新構築を図っていく必要があると考える。

課題

1. スポーツオイルマッサージの普及発展
2. 単なるマッサージではなく、選手のパフォーマンスを向上させる技術の修得
3. 国際言語の習得
4. 国際的コミュニケーション能力とグローバルスタンダードの学習
5. 各種スポーツ大会などへの応用
6. 柔整技術とスポーツオイルマッサージの融合の研究
7. 指導者育成
8. メンタルケアに関するスポーツ心理学などの学習

以下に、3日間にわたる実績、報告、課題をご報告いたします。

USAラグビーケアスタッフ 日別活動実績表

7月16日(金)						
時 間	①ルーム		②ルーム		③ルーム	
9:30～10:00	選手名	A	選手名	B	選手名	C
	セラピスト名	和田 尚子	セラピスト名	濱本 礼	セラピスト名	日高 愛美
10:10～10:40	選手名	D	選手名	E	選手名	F
	セラピスト名	山口 賢志	セラピスト名	信定 知宏	セラピスト名	永田正太郎
10:50～11:20	選手名	G	選手名	H	選手名	I
	セラピスト名	森 経介	セラピスト名	信定 知宏	セラピスト名	濱口 義弘
11:30～12:00	選手名	J	選手名	K	選手名	L
	セラピスト名	和田 尚子	セラピスト名	濱本 礼	セラピスト名	日高 愛美
12:10～12:40	選手名	M	選手名	N	選手名	O
	セラピスト名	山口 賢志	セラピスト名	森 経介	セラピスト名	永田正太郎

報告:ケア初日ということもあり、スタッフ全員かなり緊張している様子が窺えた。中には「チェンジ！（担当者の交代を意味する）」と言われたらどうしようかと心配しているスタッフもいたが、いざケアルームに入る時は堂々と一人で入って行った。夜遅くまで何度も練習に練習を重ねたことが自信と勇気に繋がったと思えるシーンであった。ケア終了後も慣れない英語を駆使し、コミュニケーションをとりながら、それぞれの選手の特徴、要望など丁寧に報告があり、次のケアに続けるための情報を提供してくれた。

課題:当初は通訳と専属のトレーナーが帯同すると話があったが、当日は選手1人しか来なかった。また開始時間も1時間30分繰り上げられたが、2時間前からスタンバイしていて間に合ったことが何よりであった。世界大会クラスでは急な変更があると聞いていたがここまでとは予測していなかった。今後の課題は急な変更に対する対応をどうするかということと、必ず変更はあるということ認識して臨むことだと思われる。

7月19日(月)

時 間	①ルーム		②ルーム		③ルーム	
13:00～ 13:30	選手名	A	選手名	B	選手名	C
	セラピスト名	大橋 晶子	セラピスト名	藤原 理絵	セラピスト名	三宅 喜子
13:40～ 14:10	選手名	D	選手名	E	選手名	F
	セラピスト名	岡田 幸仁	セラピスト名	川内 寿人	セラピスト名	木下 広志
14:20～ 14:50	選手名	G	選手名	H	選手名	I
	セラピスト名	佐藤 拓也	セラピスト名	大久保 寿宏	セラピスト名	川内 寿人
15:00～ 15:30	選手名	J	選手名	K	選手名	L
	セラピスト名	大橋 晶子	セラピスト名	藤原 理絵	セラピスト名	三宅 喜子
15:40～ 16:10	選手名	M	選手名	N	選手名	O
	セラピスト名	佐藤 拓也	セラピスト名	大久保 寿宏	セラピスト名	木下 広志

報告：2日目ということもあり、選手もケアスタッフも少し緊張が取れたように感じた。選手から話しかけられたり、日常の英会話もあちこちで聞こえるようになった。ケアスタッフも事前に情報交換、情報提供がなされており選手の特徴や要望を把握した上でケアが出来ていた。退出する際、選手たちの顔にも笑顔が見られ、ケアスタッフからも「楽しかった」という感想が聞かれた。終了後は3日目に向けての情報交換など綿密に行った。

課題：選手たちは慣れない環境でのストレスやオリンピックに対する緊張のせいか、徐々に疲れてきているなという雰囲気を感じた。その状態でどのような声かけや手技をすればよいか悩みどころであったが、それぞれのスタッフは勉強会で学んだことに加え、普段の患者さんに対する心配りの仕方や柔整手技によってその場をしのいでいた。課題は技術的なことは基より、メンタルケアに関するスポーツ心理学などの学習も必要だったかと感じた。無論この度はあまりにも短い期間での準備であったため不可能なことも多くあった。

7月21日(水)

時 間	①ルーム		②ルーム		③ルーム	
14:00～ 14:30	選手名	A	選手名	B	選手名	C
	セラピスト名	大橋 晶子	セラピスト名	森下 真帆	セラピスト名	和田 尚子
14:40～ 15:10	選手名	D	選手名	E	選手名	F
	セラピスト名	小笠原 和寿	セラピスト名	森 経介	セラピスト名	木下 広志
15:20～ 15:50	選手名	G	選手名	H	選手名	I
	セラピスト名	武内 壘	セラピスト名	山根 一人	セラピスト名	木下 広志
16:00～ 16:30	選手名	J	選手名	K	選手名	L
	セラピスト名	大橋 晶子	セラピスト名	森下 真帆	セラピスト名	和田 尚子
16:40～ 17:10	選手名	M	選手名	N	選手名	O
	セラピスト名	小笠原 和寿	セラピスト名	森 経介	セラピスト名	木下 広志

報告：3日目は選手もケアスタッフも非常にリラックスした状態となり、信頼関係も築けてきたように感じた。それぞれのマッサージルームでプライベートな会話を求められたという報告もあった。また当初は写真撮影もサインを求めることも NG とされていたが、選手側から写真を撮ろう、サインはいらないのかと話しかけてくれて、サービス精神旺盛なアメリカ人特有の文化に触れることができた。最後にアメリカラグビーチームのチームドクターから「ベリーナイス」と評価をもらい。また、選手からも「ベリーグッド」「パーフェクト」等の評価をもらうことができた。コロナ渦のオリンピック開催であったが、関係者全員誰一人感染者を出すこともなく選手たちを無事に東京スタジアムに送り届けることができた。また、試合結果も予選等トーナメントを全勝で通過し、決勝リーグでは世界第6位という結果を残すことが出来た。

課題：想定外のことが連続して起きたが、日本柔道整復師会の後押しやワールドカップラグビーでのケア経験に基づいた大分県柔道整復師会による講演会、講習会を経験出来たことでどうにか無事に乗り切ることができた。この体験をいかに社会にアピールし、柔道整復師の発展に繋げるかが今後の課題と考える。更にキーワードとして残るのは①世界のトップアスリートに通用する柔道整復師としての医学的能力②スポーツオイルマッサージ効果の理論とエビデンス③柔整学のグローバル化ではなかろうか。以上の3点の明確化が必要と考える。また、世界の視点から日本の柔道整復師を観察した場合にどう感じられるだろうか、その為の前向きな課題は多く残されていると感じた。

ケアに向けてケア技術講習会 (6/12, 14, 19, 26, 28, 7/5, 8, 13)



公益社団法人大分県柔道整復師会による講演・講習会

(WCR 2018 ニュージーランドオールブラックスに対するケア経験に基づく) (7月4日)



アメリカラグビートーム美作市に到着(7月15日)



湯郷ポピースプリングス(宿泊施設) & スパ棟(ケアルーム)



ケア当日 (ポピースプリングス前)

7月16日



7月19日



7月21日



事前合宿オープニングセレモニー、公開練習(7月20日)



ケア当日 選手達と(7月21日)



7日間のキャンプを終了して国立競技場に向けて出発(7月22日)



東京2020オリンピック開会(7月23日)

